

目 次

まえがき v

第1章 時間と時制の関わり合い……………	1
1.1. 時制のパラドックス	1
1.2. 時間のイメージ	4
1.3. 時制の成り立ち	14
第2章 時制のもう一つの顔……………	21
2.1. 発話と「心的態度」	21
2.2. 真偽判定のための文法的標識	24
2.3. 文法は聞き手のためのもの	25
第3章 英語の「完了形」が表すもの……………	28
3.1. 「完了相」と「完了形」	28
3.2. 「現在完了」の言語比較	29
3.3. やっかいな英語の完了形	33
3.4. 英語の現在完了の用法	34
3.5. 英語の現在完了の時間構造	37
3.6. 過去完了と未来完了	45
3.7. 現在完了の変化	51
3.8. まとめ：真偽判断の二つのモード	52

第4章	英語の「進行形」が表すもの	54
4.1.	つかみきれない英語の進行形の姿	54
4.2.	進行形の多彩な用法	57
4.3.	アスペクトか時制か	58
4.4.	相対時制としての進行形	59
4.5.	進行形の表す時間	64
4.6.	「解釈」の用法について	75
4.7.	「接線」としての進行形	77
4.8.	感情的色彩	79
4.9.	増える使用率	81
第5章	英語の「未来時制」と近代的時間意識	83
5.1.	未来時制の性質	83
5.2.	英語の「未来時制」	85
5.3.	時間の近代化と疎外	96
5.4.	アメリカ合衆国の時間事情	97
第6章	過去という時間領域の性質	100
6.1.	とりあげる問題	100
6.2.	過去の文法的表し方	101
6.3.	英語の過去時制	102
6.4.	スペイン語の二つの過去時制	105
第7章	「た」と日本語の時間意識	116
7.1.	過去を表すだけでない「た」	116
7.2.	「た」の意味	117
7.3.	失われた過去と固まった過去	118
7.4.	異なる見解	120
7.5.	日本人の時間意識	124
7.6.	日本における時間観念の成立	126

7.7.	「空間」としての時間	127
7.8.	「過去」と「昔」	129
7.9.	日本語のメンタリティー	130
第8章	英語の不定詞と真偽値	134
8.1.	不定詞は真偽値を持つか	134
8.2.	命令文	135
8.3.	従属節の原形不定詞	136
8.4.	to不定詞	137
8.5.	まとめ: 英語の不定詞の経済性	147
第9章	言語習得と時制	148
9.1.	言語差の大きなシステム	148
9.2.	英語の時制習得	149
9.3.	他言語の例	152
9.4.	アスペクトの理解	154
9.5.	時制の出現	156
9.6.	「過剰一般化」の道筋	156
9.7.	「心的世界」の出現	158
9.8.	理解力か情報処理能力か	159
9.9.	未来時制習得の意義	160
第10章	物語と時制	162
10.1.	時制と文体	162
10.2.	「説明」の時制と「語り」の時制	163
10.3.	時制の使い分けによる浮き彫り効果	165
10.4.	日本語の「ル形」と「タ形」	167
10.5.	「話」と「語り」	168
10.6.	昔話の特色	170
10.7.	物語の実験的手法	177

第11章 時制と「真理」の関わり	179
11.1. 時制と発話態度	179
11.2. 引用時制	180
11.3. 証拠時制	182
11.4. 時制の二重の働き	184
11.5. 「時」が真理値に関わる理由	188
第12章 非対称な過去と未来	189
12.1. 未来と過去の細分化	189
12.2. 過去の仕分け	191
12.3. 心理的距離	193
12.4. 現在と未来／過去とのつながり	194
12.5. ウォーフのホーピ語観	196
12.6. 得体の知れない未来	197
12.7. 過去と大地のつながり	199
12.8. アイデンティティの拠り所	201
12.9. 非対称な「砂時計」	202
第13章 時制と「世界の見え方」：まとめに代えて	204
13.1. サビア=ウォーフの仮説	204
13.2. ことばの強制力	206
13.3. 世界観との関わり	207
13.4. 結語	210
引用文献	213
索引	221